九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

高校生のための

九州大学

2026

Department of Medicine,
Kyushu University School of
Medicine

医学部
医学科紹介

「医師・医学研究者を目指す皆さんへ」

九州大学医学部医学科長
須 藤 信 行

九州大学医学部は、1903年（明治36年）にこの「馬出（まいだし）」の地に京都帝国大学福岡医科大学として開設され、1911年（明治44年）には九州帝国大学医科大学となり、その後いくつかの名称変更等を経て、現在に至っています。

この間、九州大学医学部は一貫して、人類の健康と福祉の増進に貢献する医師と医学研究者の育成をその使命としてきました。その結果、世界の医学界に誇る数々の研究業績とともに、我が国のみならず世界の医学・医療を支える幾多の人材を輩出しています。

医学は、生命の成り立ち、病態、病因に迫っていくいわゆる「基礎医学」という分野と、治療法開発と患者さんを実際に治療する、いわゆる「臨床医学」の両輪が協力して成り立っています。医師の道には、医学の知識だけではなく、人間性や思考力、倫理観の醸成も重要で、患者さんと向き合い、人々の喜びや悲しみに寄り添い、優しさと尊厳を持って接すること、さらに看護師、医療技術者、薬剤師など、多くの専門家と協力することが求められます。したがってコミュニケーション能力や協働力を磨くことも大切です。

医学部医学科のカリキュラムは、入学初年次は教養や一般的な常識を培うため、1年間伊都キャンパスで学び、2年目からは、学びの場所を病院キャンパスに移して、本格的な医学・医療の勉強を開始することとなります。

〇基礎医学：医学の基礎となる科目を学びます。解剖学、生理学、病理学、薬理学など、人体の構造や機能、疾患のメカニズムについて学びます。
〇臨床医学：疾患の診断と治療について学びます。内科学、外科学、小児科学、産婦人科学など、さまざまな臨床科目をカバーします。症例の解析や臨床実習を通じて、実際の医療現場での経験を積む機会も提供されます。
〇公衆衛生学：予防医学や集団の健康管理について学びます。感染症対策、健康政策、エピデミオロジーなど、社会全体の健康を促進するための知識とスキルを習得します。

〇医療倫理·法学：医療倫理や医療法に関する教育も重要な一部です。患者の権利や医療倫理に基づいた医療の実践方法を学びます。

また、臨床実習は、主として全国の大学病院の中でも最大級の規模を誇り、多くの高度先進医療技術の備わっている九州大学病院で行われ、地域の医療機関や保健所への派遣も合わせて、実践的な経験を得ることができます。

更に九州大学では、一般的な医学部の課程に加えて数年間大学院で研究を行うことにより、卒業時にMD（医学士）とPhD（医学博士）の両方を取得することができる「MD-PhDコース制度」を設定しています。本コースを選択した学生は医学科4年次を修了した時点でいったん休学し、そのまま大学院博士課程（原則4年間）に進学します。そこで研究を行い、医学博士（PhD）を授与された後、医学科の5年生に復学し、残りの課程を修了して医学科を卒業することになります。もちろん、医学科を卒業し、医師国家試験を受けた後に研修医を経ないで大学院博士課程に入学する方や、医学科卒業後に研修医そして専門医として3〜5年ほど臨床修練を行った後に大学院博士課程に入学される方もいます。MD-PhDコースを選択した人は、将来そのまま研究者になることも可能であり、また基礎医学研究で培った深い知識やものの見方を活用して臨床医学研究や医療に役立てることもできます。

九州大学医学部には皆さんの将来の夢を実現するための環境が整っています。医学部での学びは決して容易ではありませんが、その分、やりがいのあることばかりです。皆さんには九州大学を目指して勉学に励んで頂き、入学後は私達と一緒に、新しい医学を切り開いていきましょう。

沿　　革／History －おもな年表－

明治36年 4月 1日	京都帝国大学福岡医科大学開設 解剖学、内科学、外科学、眼科学各１講座開設
〃36年 9月11日	生理学、医化学各１講座開設
〃36年 9月14日	第１回入学宣誓式挙行
〃36年 9月22日	第１回教授会開催
〃37年 5月20日	解剖学、外科学を２講座に増設、病理学、小児科学、衛生学各１講座を開設
〃38年 3月22日	内科学を２講座に増設、薬物学、婦人科学産科学各１講座開設
〃38年11月13日	第１回解剖体祭を万行寺にて執行
〃39年 4月23日	皮膚病学黴毒学、法医学、精神病学、耳鼻咽喉科学各１講座開設
〃40年 5月 9日	病理学が２講座となる
〃40年12月12日	第１回卒業証書授与式挙行
〃41年 5月 1日	解剖学が３講座となる
〃42年 5月24日	内科学が３講座となり整形外科学講座開設
〃44年 4月 1日	京都帝国大学福岡医科大学が九州帝国大学医科大学となる
〃45年 5月29日	衛生学が２講座となる
大正 7年 6月18日	生理学が２講座となる
〃 8年 4月 1日	九州帝国大学医科大学は九州帝国大学医学部となる
〃11年 5月29日	歯科学講座開設
〃12年 1月19日	衛生学２講座は衛生学講座と細菌学講座とに分立
〃13年 7月 7日	皮膚病学黴毒学講座は皮膚科学泌尿器科学講座の２講座となる
昭和 2年10月 7日	歯科学は歯科学口腔外科学講座となる
〃 3年10月24日	創立25周年記念祝典挙行
〃 4年12月17日	放射線治療学講座開設
〃11年 3月27日	薬物学講座は薬理学講座と改称、皮膚科学泌尿器科学講座は皮膚科学講座と泌尿器科学講座に分立
〃14年 5月13日	臨時附属医学専門部設置
〃15年12月10日	民族衛生学・植民衛生学講座開設
〃17年 9月23日	臨時附属医学専門部第１回卒業式挙行
〃19年 3月31日	臨時附属医学専門部は附属医学専門部と改称
〃19年 5月10日	熱帯伝染病研究所設立
〃20年 4月 1日	環境医学研究所設立
〃21年 2月14日	熱帯伝染病研究所を風土病研究所と改称
〃21年 3月 1日	民族衛生学・植民衛生学講座は民族衛生学講座と改称
〃22年10月 1日	九州帝国大学医学部は九州大学医学部となる
〃24年12月 1日	放射線治療学講座を放射線医学講座と改称
〃25年 4月 1日	薬学科設置３講座が開設
〃26年 4月 1日	衛生学講座と民族衛生学講座は衛生学第１講座、衛生学第２講座となる 寄生虫学講座開設、薬学科が５講座となる
〃27年 4月 1日	結核研究施設、助産婦学校、看護学校設置、薬学科が７講座となる、附属医学専門部廃止
〃28年 4月 1日	精神病学講座は神経精神医学講座と改称
〃28年 5月 3日	医学部創立50周年記念式典挙行
〃29年 4月 1日	診療エックス線技師学校設置
〃29年 9月 9日	衛生学第１講座は衛生学講座に衛生学第２講座は公衆衛生学講座と改称
〃30年 4月 1日	九州大学大学院医学研究科設置
〃30年10月31日	癌研究室開設
〃31年 7月16日	九州大学附属図書館に医学部分館設置
〃32年 4月 1日	がん研究施設設置、化学部門開設
〃33年 4月 1日	心臓血管研究施設設置、内科部門開設
〃35年 4月 1日	結核研究施設は胸部疾患研究施設にがん研究施設が癌研究施設と改称、衛生検査技師学校設置
〃36年 4月 1日	精神身体医学研究施設設置、癌研究施設に病理部門開設
〃37年 4月 1日	麻酔学講座開設
〃38年 4月 1日	精神身体医学研究施設廃止、精神身体医学講座、放射線基礎医学講座開設、放射線医学講座は放射線科学講座と改称、脳神経病研究施設設置、内科部門開設
〃39年 4月 1日	薬学科を薬学部薬学科に振替
〃41年 4月 1日	医化学講座は生化学第１講座となり、第２講座開設、脳神経病研究施設に外科部門開設

昭和42年 4月 1日	癌研究施設に細胞部門開設
〃42年 6月 1日	歯科学口腔外科学講座は口腔外科学として歯学部に振替
〃47年 3月31日	衛生検査技師学校廃止
〃48年 3月31日	看護学校及び診療放射線技師学校廃止
〃48年 4月12日	ウイルス学講座開設、心臓血管研究施設に外科部門開設、動物実験施設設置
〃48年11月24日	創立70周年記念式典挙行
〃49年 4月11日	脳神経病研究施設に病理部門開設
〃51年 4月 1日	癌研究施設に免疫部門開設
〃52年 4月18日	臨床薬理学講座開設
〃53年 3月31日	助産婦学校廃止
〃53年11月25日	創立75周年記念式典挙行
〃54年 4月 1日	小児外科学講座開設
〃56年 4月 1日	遺伝情報実験施設設置
〃57年 4月 1日	脳神経病研究施設に生理部門開設
〃57年 4月 1日	癌研究施設は生体防御医学研究所に改組のため廃止
〃58年11月 5日	創立80周年記念式典挙行
〃60年 4月 1日	遺伝情報実験施設は学内共同利用施設となる
〃61年 4月 1日	医学研究科を医学系研究科に拡充改組、分子医学系専攻博士課程及び分子生命科学系専攻博士課程（後期３年の課程のみの博士課程）増設
〃62年 5月21日	心臓血管研究施設に臨床細胞科学部門開設
〃63年 4月 8日	統合教育研究実習センター設置
平成元年 5月29日	麻酔学講座は麻酔・蘇生学講座と改称
〃 元年 5月29日	脳神経病研究施設の生理部門を廃止し、同施設に臨床神経生理部門開設
〃 6年 4月 1日	臨床検査医学講座開設
〃 7年 5月29日	医学系研究科社会医学系専攻医療システム学講座開設
〃 9年 4月 1日	心臓血管研究施設の臨床細胞科学部門を廃止し、同施設に分子細胞情報学部門開設 医学系研究科の再編成により、機能制御医学専攻・生殖発達医学専攻開設（大学院整備（重点化）３か年計画の初年次）
〃10年 4月 8日	医学系研究科の再編成により、病態医学専攻・臓器機能医学専攻開設（大学院整備（重点化）３か年計画の２年次）
〃11年 4月 1日	医学系研究科の再編により、分子常態医学専攻・環境社会医学専攻開設（大学院整備（重点化）３か年計画完了） 胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設は、医学系研究科の附属研究施設となる
〃12年 4月 1日	医学系研究科を廃止し、医学系学府（大学院教育組織）及び医学研究院（大学院研究組織）を設置 胸部疾患研究施設・心臓血管研究施設・脳神経病研究施設・動物実験施設は、医学研究院の附属研究施設となる
〃13年 4月 1日	大学院医学研究院環境社会医学部門に医療経営・管理学講座が設置され、大学院医学系学府に医療経営・管理学専攻修士課程（専門大学院）が設置された
〃14年10月 1日	医学部に保健学科が設置され、医療技術短期大学部は、同部学生が在学する間存続することとなった
〃15年 3月 8日	創立100周年記念式典挙行
〃15年 4月 1日	医学研究院の８部門を基礎医学部門、先端医療医学部門、臨床医学部門、分子生命科学系部門及び医学教育学部門の５部門に、23講座を11講座に再編 大学院医学系学府に医科学専攻（修士課程）が設置された 医学研究院附属統合教育研究実習センターを廃止し、全学共同教育研究施設として医療系統合教育研究センターを設置 大学院システム生命科学府の設置に伴い、大学院医学系学府分子生命科学系専攻は、同専攻学生が在学する間存続することとなった 学校教育法の改正により、大学院医学系学府医療経営・管理学専攻修士課程（専門大学院）は、同（専門職大学院）となる
〃16年 4月 1日	九州大学は国立大学法人九州大学が設置する大学となった
〃19年 4月 1日	医学部に生命科学科を設置 大学院医学系学府に保健学専攻（修士課程）を設置
〃20年 4月 1日	大学院医学系学府博士課程を１専攻に再編
〃21年 4月 1日	大学院医学系学府に保健学専攻（博士後期課程）を設置
〃23年 4月 1日	九州大学病院は医学部及び歯学部の附属施設となる
〃24年 4月 1日	医学研究院に応用幹細胞医科学部門設置 同部門に応用幹細胞医科学講座設置
令和 5年12月16日	医学部創立120周年式典挙行

医学部医学科案内

医学部医学科アドミッションポリシー

求める学生像

医学科では以下の学生を求める。
医師の仕事は、非常に幅広く、基礎の研究者から臨床医まで選択肢も多い中で、最も大切なことは弱い立場の患者さんの味方となり、病気に苦しんでいる患者さんを助けることである。単に受験学力が高いから医学部に入学するのではなく、医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍するに十分な能力と素質をもち、明確な目的意識をもった学生を望んでいる。
人間で最も大切なことは、「生きがいを持ち人間らしく生きること」である。命に直接関係するような病気を持っている患者さんは、ややもすると、この「生きがい」をなくし、生きる喜び、生きる目標を失っている。このような人達に優しい救いの手をさしのべることができる人間味あふれる学生を求めている。

求める学生像と学力3要素との関係

①知識・技能：
高等学校などにおける基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。加えて、医学・医療における知識・技能の習得ができる基礎的な能力。
②思考力・判断力・表現力などの能力：
多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。医学知識を習得し、臨床に応用するために努力を惜しまない姿勢。
③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：
医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍することへの強い関心、多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する姿勢。多職種と協働して医療を提供しようという意欲。患者・家族から求められている医療を真摯に提供しようとする意欲。新しい医学を創造・発展しようとする意欲。

入学者選抜方法

	①知識･技能	②思考力･判断力･表現力などの能力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜（前期）	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査 個別面接	調査書 志望理由書 個別面接

教育理念（教育理念･目標､育成する人材像等）

医学部医学科は、医学に関する知識・技術の教育を基盤にし、医の倫理に徹し、旺盛な探求心を有する医師および医科学研究者を育成することを目的としています。創始以来約100年の伝統に培われた医学科の教育・研究の成果として、世界の医学界に誇る数多くの研究業績があります。またその名声により遠近を問わず広く一般患者に利用されている大学病院は、より高度な医療と社会福祉の実現に向かって全力をはらっています。医師・医学者には自然科学者としての適性が求められる一方、病気と闘う患者に寄り添うよき援助者であることも求められます。さらに医師の判断は患者の人生に大きな影響を与える可能性があります。医学部医学科での教育・研究は、専門性の修得ばかりではなく、広く深く人間についての洞察を重ねることへとつながるものです。
「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための多様な人材を育成することが目的です。

九州大学医学部医学科「使命」

九州大学医学部医学科は、九州大学教育憲章・学術憲章及び基本理念に基づき、人類の健康と福祉の増進のために、将来日本及び世界で貢献できる医師及び医科学研究者の育成を使命とする。
九州大学医学部医学科が育成するのは、社会的使命感と高い倫理観を有し、高度な医学知識・技能を有するのみならず、病気と闘う患者により添うことのできる、人間性あふれる人材である。
さらに、他者と協働しながら国内外における健康や福祉に関する諸課題の解決に果敢に取り組む姿勢、及び生涯にわたり自ら進んで学ばんとする旺盛な科学的探究心の涵養を目指す。
また、医学・医療を創造できる人材の育成も我々の使命である。

九州大学医学部医学科　ディプロマ・ポリシー

教育の目的

医学部医学科は、医学に関する知識・技術の教育を通して、医の倫理に徹し、旺盛な探究心を有する医師および医科学研究者を育成することを目的とする。創始以来約100年の伝統に培われた医学科の教育・研究の成果として、世界の医学界に誇る数多くの研究業績がある。またその名声により遠近を問わず広く一般患者に利用されている大学病院は、より高度な医療と社会福祉の実現に向かって全力をはらっている。
医師・医学者には自然科学者としての適性が求められる一方、病気と闘う患者に寄り添うよき援助者であることも求められる。さらに医師の判断は患者の人生に大きな影響を与える可能性がある。医学部医学科での教育・研究は、専門性の修得ばかりではなく、広く深く人間についての洞察を重ねることへとつながる。
「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための多様な人材を育成することが目的であり、本学科所定の課程を修め、下記の学修目標を達成した者に、学士（医学）を授与する。

参照基準

医学教育モデル・コア・カリキュラム
「日本医学教育評価機構医学教育分野別評価（2022年度受審）」
●https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryou/mext_00005.html
● https://www.jacme.or.jp/

学修目標（卒業時アウトカム）

A. 主体的な学び・協働

A-1. 生涯学習能力
深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。

A-2. 生涯学習能力
多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。

A-3. 生涯学習能力
医学・医療の発展に寄与するために、絶えず自らを省察し、多職種と連携しながら生涯にわたって学び続けることができる。

A-4. 生涯学習能力
英語をはじめとした異なる言語で、医学・医療を理解し、自らの考えを表現できる。

B. 知識･理解

B-1. 医学知識

生体の構造と機能の基本原理を理解し、説明できる。

B-2. 医学知識

広く生命現象の解明ならびに疾患の病因･病理･病態の解明に必要な研究について理解し、説明できる。

B-3. 医学知識

個体の反応、病因と病態およびその診断と治療について理解し、説明できる。

C. 能力

C-1. 診療技術

指導医の指導の下で基本的な診療（医療面接、臨床推論、診療録記載、臨床判断、身体診察、基本的臨床手技）を実施できる。

C-2-1. 科学的探究心

他者の医学･生物学的プレゼンテーションを理解し、科学的･批判的に検討し、討論をすることができる。

C-2-2. 科学的探究心

医学知見を批判的に吟味することができる。

C-2-3. 科学的探究心

医学･医療をさらに進歩させるために、医学研究に取り組むことができる。

D. 実践（実践的な場面での知識･理解の活用）

D-1. 医療安全

システムとしての安全文化を理解し、指導医の指導の下に患者安全策を実施できる。

D-2. チーム医療

（A-2を更に発展させて、）患者中心の医療を実践するため、診療チームの一員として参加できる。

D-3. コミュニケーション

患者･家族と心理･社会的背景に配慮しながら良好な関係を築くことができる。

D-4. 地域･国際社会への貢献

福祉･介護･保健･医療制度の現状も含めて社会と医学の関わりを理解し、説明できる。

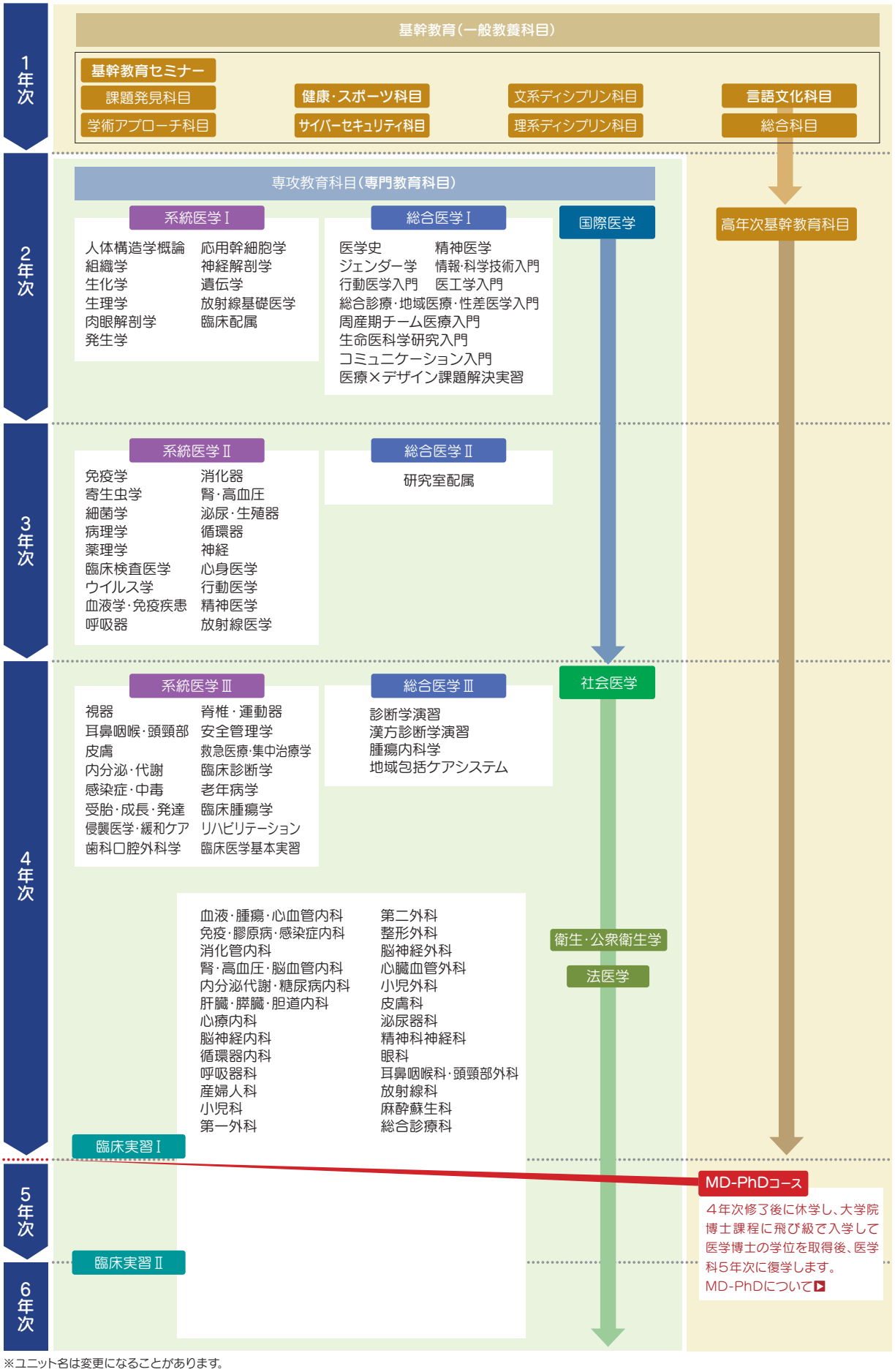
D-5. 地域･国際社会への貢献

地域医療の現状及び国際的な保健･医療の課題を理解し、貢献する意欲を持つことができる。

D-6. 医師･研究者としての使命感と倫理観

社会で求められる医師･研究者としての役割･責任を自覚し、高い倫理観を持って日々の学習･実践に臨むことができる。

カリキュラム



※ユニット名は変更になることがあります。

カリキュラム概要

系統医学Ⅰ～Ⅲ

医学・医療の長い歴史で培われた、多くの場面で必要となる最新の知識や技能、態度を学びます。必修制を採用しています。

生化学実習

総合医学Ⅰ～Ⅲ

地域社会や国際社会、あるいは医学教育の変化に伴い、ある場面で特に必要となる知識や技能、態度を学びます。主に選択必修制を採用しています。

患者さんの接し方

臨床実習Ⅰ・Ⅱ

それまでに学んだ知識、技能、態度を活かして、大学病院あるいは地域や海外の医療機関で、本物の患者さんや医療スタッフとのやり取りをとおして、医師としてのプロフェッショナリズムを実践的に学びます。

臨床実習

社会医学

医学・医療における倫理学や法学をはじめとする人文社会科学系の側面、さらに統計学や情報学などの理学・工学系の側面を学びます。

国際医学

医学・医療の現場で必要な英語の学習を基盤とし、将来、外国人患者の診療や海外で臨床・医学研究に携わる動機づけのために、海外における医学・医療や国際NGOの活動などについて学びます。

MD-PhDコース

早期に本格的な基礎医学研究を始めたい学生は、４年生修了時に休学し、医学系学府医学専攻博士課程に『飛び級』できます。博士号を取得した後に医学科５年生に復学します。

学　　生／Students

(1)　学生定員及び在籍学生数 Enrollment Limit and Present Number

医　学　部
School of Medicine

（令和8年5月1日現在）
As of May 1st, 2026

	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	5年 5th year	6年 6th year	合計 Total
医学科 Department of Medicine	定　員 Enrollment Limit	105	105	105	105	110	110	640
	在籍学生数 Present Number	114 (20)	117 (37)	117 (26)	113 (28)	105 (34)	117 (27)	683 (172)
生命科学科 Department of Biomedical Science	定　員 Enrollment Limit	12	12	12	12			48
	在籍学生数 Present Number	16 (8)	12 (8)	21 (13)	14 (6)			63 (35)
保健学科 Department of Health Sciences	定　員 Enrollment Limit	134	134	134	134			536
	在籍学生数 Present Number	143 (110)	136 (103)	133 (109)	155 (121)			567 (443)
合　計 Total	定　員 Enrollment Limit	251	251	251	251	110	110	1,224
	在籍学生数 Present Number	273	265	271	282	105	117	1,313

Figures in parentheses indicate the number of female students.

＊(　)内は女子で内数を示す。

大学院（修士課程）
Graduate School(Master's Course)

（令和8年5月1日現在）
As of May 1st, 2026

専　攻　名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医科学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences	定　員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	32	30	62
保健学専攻 Master Course in Graduate School of Medical Sciences, Department of Health Sciences	定　員 Enrollment Limit	27	27	54
	在籍学生数 Present Number	44	34	78
合　計 Total	定　員 Enrollment Limit	47	47	94
	在籍学生数 Present Number	76	64	140

大学院（専門職学位課程）
Graduate School(Master's Course)

（令和8年5月1日現在）
As of May 1st, 2026

専　攻　名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	合計 Total
医療経営･管理学専攻 Health Care Administration and Management	定　員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	16	22	38
合　計 Total	定　員 Enrollment Limit	20	20	40
	在籍学生数 Present Number	16	22	38

大学院(博士課程)
Graduate School(Doctor's Course)

(令和8年5月1日現在)
As of May 1st, 2026

専　攻　名 Course	定員及び在籍学生数 Classification	1年 1st year	2年 2nd year	3年 3rd year	4年 4th year	合計 Total
医学専攻 Department of Medical Sciences	定　員 Enrollment Limit	107	107	107	107	428
	在籍学生数 Present Number	127	134	113	149	523
保健学専攻 Doctor Course in Graduate School of Health Sciences	定　員 Enrollment Limit	10	10	10	—	30
	在籍学生数 Present Number	5	10	21	—	36
合　計 Total	定　員 Enrollment Limit	117	117	117	107	458
	在籍学生数 Present Number	132	144	134	149	559

＊保健学専攻は博士後期課程

(2)　学部卒業生数 Number of Graduates

(令和8年5月1日現在)
As of May 1st, 2026

		令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025	平成3年7月1日以降の卒業者数(累計) Total (1991.7.1～2026.3.31)
医学科 Department of Medicine		120	100	114	3,684
生命科学科 Department of Biomedical Science		10	16	7	193
保健学科 Department of Health Sciences	看護学専攻 Nursing Course	65	65	69	1,398
	放射線技術科学専攻 Radiological Sciences Course	33	30	28	678
	検査技術科学専攻 Medical Technology Course	34	27	29	685
	小計 Total	132	122	126	2,761
計 Total		262	238	247	6,638

＊医学部保健学科は、平成14年10月に九州大学医療技術短期大学部を改組して設置。第1回卒業生は平成19年3月。
Department of Health Sciences was founded in Oct. 2002, The first graduating class was in March, 2007

医学部(医学士)卒業生

学部(旧制)累計 ―― 4,766名
School of Medicine(Old system)

学部(新制　昭和24年以降入学～平成3年6月30日卒業)累計 3,858名
School of Medicine(New system　1949～1991.6.30)

医学専門部累計 ―― 838名
Medical College

（3） 大学院学位授与者数 Doctorate Conferred

区　分 Classification			令和5年度 2023	令和6年度 2024	令和7年度 2025	平成3年7月1日以降の学位授与者数（累計） Total (1991.7.1～2026.3.31)
博士課程 Doctor Course	課程博士 Degrees Awarded	博士（医学） Doctor of Philosophy (Medical Science)	88	124	106	2,931
		博士（理学） Doctor of Science				82
		博士（看護学） Doctor of Nursing	2	2	1	46
		博士（保健学） Doctor of Health Science	6	5	3	77
	論文博士 Theses Accepted	博士（医学） Doctor of Philosophy (Medical Science)	14	18	7	1,284
		博士（理学） Doctor of Science				8
修士課程 Master Course		修士（医科学） Master of Medical Sciences	14	16	14	381
		修士（医療経営・管理学） Master of Public Health				38
		修士（看護学） Master of Nursing	11	11	7	158
		修士（保健学） Master of Health Science	19	17	19	364
専門職学位課程 Master Course		医療経営・管理学修士（専門職） Master of Health Administration	21	22	19	416

博士学位授与者数 Doctorate Conferred

旧制学位（福岡医科大学、九州帝国大学、九州大学）累計 Old system ―― 5,310名

新制学位 New system

課程博士（昭和24年以降入学～平成3年6月30日授与）累計 Degrees Awarded(1949～1991.6.30) ―― 医学博士 891名 / 理学博士 16名

論文博士（昭和28年～平成3年6月30日授与）累計 Theses Accepted(1953～1991.6.30) ―― 医学博士 1,549名

令和9年度入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、配点等）

入学定員：105名　一般入試（前期日程105名）

（1） 大学入学共通テスト及び個別学力検査等の配点

前期日程

	国　語	地理・歴史	公民	数　学	理　科	外国語	情　報	面　接	計
大学入学共通テスト	100	50		100	100	100	25	－	475
個別学力検査	－	－		250	250	200	－	（注1）	700
計	100	50		350	350	300	25	－	1,175

（2） 個別学力検査実施教科・科目等

前期日程

	数　学	理　科	外国語	面　接
科　目	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C 6科目	物理基礎・物理 化学基礎・化学 2科目	英語 英語コミュニケーションⅠ,Ⅱ,Ⅲ 論理・表現Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 1科目	面接
配　点	250（150分）	250（150分）	200（120分）	（注1）

（注1）　総合判定の判断資料とします。

令和10年度以降の入学者選抜方法変更について（予告）

（2） 個別学力検査実施教科・科目等

前期日程

	数　学	理　科	外国語	面　接
科　目	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C 6科目	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 2科目選択	英語 英語コミュニケーションⅠ,Ⅱ,Ⅲ 論理・表現Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 1科目	面接

国際交流

九州大学医学部では、国際交流も盛んに行われており、海外で臨床実習を受けることができます。

※海外実習先　韓国（釜山大学、仁済大学、慶尚大学、ソウル大学）
台湾（台湾国立大学）
タイ（チュラロンコン大学）
ドイツ（グーテンベルク大学）
アメリカ（クリーブランドクリニック、イリノイ大学）

ヨハネス･グーテンベルク大学での実習を終えて　医学科6年　武内　悠

私は2026年3月、ドイツのマインツにあるヨハネス･グーテンベルク大学にて、4週間の臨床実習に参加しました。友人と2人での参加であり、ヨーロッパでの長期滞在は初めてでしたが、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。

福井先生と現地の先生との写真

～実習～

実習は、最初の1～2週間を整形外科、3週目を産婦人科、4週目を耳鼻咽喉科･眼科で行いました。初日はグーテンベルク大学の福井先生のもとで実習が行われ、日本語での説明もあり大きな不安なくスタートすることができました。しかし2日目以降は基本的に単独での手術見学となり、英語でのコミュニケーション環境に最初は強い戸惑いを感じました。特に最初の数日は精神的にも負担が大きく、近くの大聖堂で休憩することもありました。

実習時間は概ね7時30分から16時頃までで、手術内容によっては早く終了する日もありました。また金曜日は手術件数が少なく、比較的早く終わることが多かったです。今回の実習では、1日に多い時で5、6件、少なくとも3件の手術を見学することができ、非常に新鮮でした。さらに、マスク換気や末梢静脈ライン確保といった手技も、経験させていただくことができました。一方で、こちらから積極的に意思表示をしないと機会を逃してしまう場面も多く、主体的に行動することの重要性を強く実感しました。

現地の医師や学生は非常に親切で、積極的に話しかけてくれる方も多く、言語の壁はありつつも良好な関係を築くことができました。

～生活～

生活面では、友人とともにエアビーで借りた家に滞在し、自炊を中心とした生活を送りました。昼食は学食を利用し、夕食はスーパーで食材を購入して調理することが多かったです。ドイツの食文化として、ソーセージはもちろんのこと、「クヌーデル」という料理が特に印象的で、日本のいももちのような食感でとても好みでした。

学食での食事▶

他大学の学生との交流

福井先生が現地のカフェに連れて行ってくださったり、ホームパーティーを開催してくださったりとお忙しい中ドイツでの私たちの生活を気にかけてくださったので、実習が終わった後も有意義な時間を過ごすことができました。また、3月の最終週はイースターの時期と重なり、街中には卵の装飾が見られ、ライン川沿いには移動式遊園地が設置されるなど、季節ならではの文化も体験することができました。放課後に他大学の学生と訪れるなど、交流の機会にも恵まれました。

～観光～

週末を利用して、スペインやフランス、ドイツ国内の観光も行いました。ヨーロッパを訪れるのは初めてでしたが、各国の文化や街並みを実際に体験することができ、大変充実した時間となりました。

最後に

今回の実習は、言語面や環境の違いから困難を感じる場面も多くありましたが、それ以上に多くの学びと成長の機会を得ることができました。特に、主体的に行動することの重要性や、異なる医療環境での柔軟な対応力の必要性を実感しました。また、海外での臨床実習を通して、日本とは異なる医療体制や文化に触れたことは、今後の医師としてのキャリアを考える上でも非常に有意義な経験となりました。もし、少しでも海外での実習に興味があるならば、グーテンベルク大学での実習はとてもおすすめです。

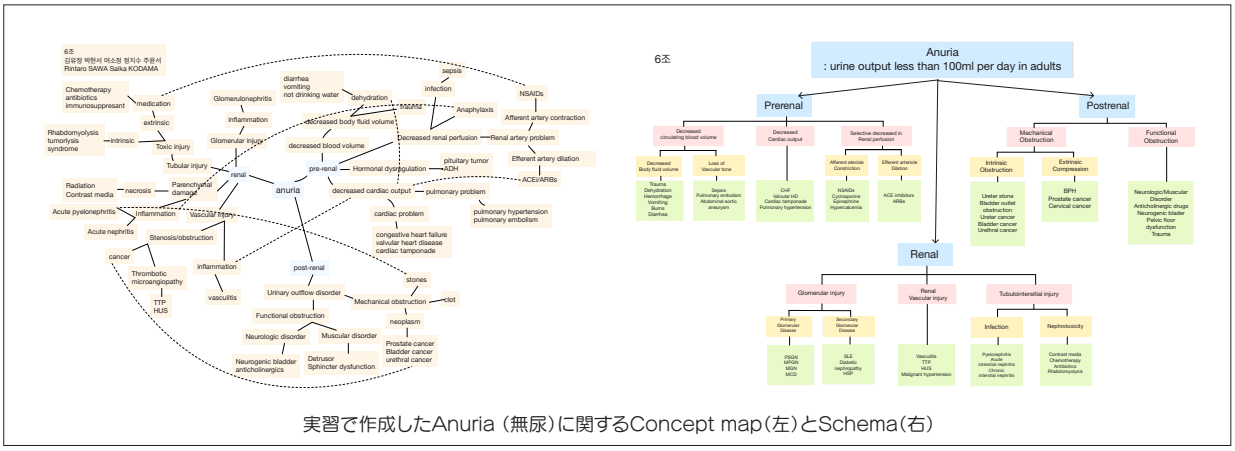
最後にはなりますが、今回のグーテンベルク大学での実習を調整してくださった福井先生、九大麻酔科の先生方、グーテンベルク大学のスタッフの皆様、共に生活してくれた大石さんには感謝申し上げます。有難うございました。

仁済大学でのPBL研修について　医学科3年　澤　凜太郎

私は2026年3月3日から3月5日にかけて、韓国・釜山の仁済（インジェ）大学において、カリキュラムの一環であるPBL（Problem-Based Learning）に参加しました。PBLとは、学生同士で一人の患者についてディスカッションを行い、疾患・病態・治療を推論していく学習形式です。

授業は午前（11:00–12:50）と午後（14:00–15:50）に分かれており、午前は教員の指導のもとでディスカッションを行い、午後は午前中に挙がった問題点や課題を各自で調べ、理解を深める時間でした。

初日は模擬患者が提示され、学生の一人が医師役となって問診・診察を行いました。初診後、与えられた基本情報をもとに鑑別診断を挙げ、次に行うべき問診内容や診察項目について議論しました。その後、再度診察を行い、このプロセスを数回繰り返すことで、可能性のある疾患を絞り込みました。2日目には血液検査や画像検査などの追加情報が提示され、それらを踏まえて最終診断を決定し、さらに短期的・長期的な治療方針について議論しました。3日目には、大学側から提示された類似疾患との鑑別問題に取り組み、グループごとにConcept mapおよびSchemaを作成しました。



実習で作成したAnuria（無尿）に関するConcept map（左）とSchema（右）

本実習を通して、特に「英語力の重要性」と「体系的理解の必要性」を強く実感しました。ディスカッションはすべて英語で行われたため、自分の意見を述べたり、疾患や病態を説明したりする際に苦労する場面が多くありました。一方で、韓国の学生は多くの医学知識を英語で習得しており、その差に大きな刺激を受けました。今後、学習や研究を進めるうえで英語力は不可欠であり、その重要性を改めて認識する機会となりました。

また、韓国の学生が作成していたConcept mapやSchemaは、知識を体系的に整理するうえで非常に有用であると感じました。これまでの講義では、試験対策として個々の疾患を個別に学習することが多く、知識が断片的になりやすく、理解も浅くなりがちでした。しかし、Concept mapを用いることで、病態生理に基づいた関連付けが可能となり、より深い理解につながると感じました。さらに、PBLという学習形式そのものも、学生が主体的に学ぶ姿勢を養ううえで非常に有意義であり、九州大学の講義にも導入する価値があると感じました。

実習は毎日16時頃に終了し、その後は観光や食事を通じて交流を深めました。2年次の解剖実習で親しくなった仁済大学の学生とも再会し、食事や観光に連れて行ってもらうなど、充実した時間を過ごすことができました。また、カラオケに行って互いの国の音楽を紹介し合ったり、深夜まで語り合ったりする中で、国境を越えた交流の楽しさを実感しました。多くの学生が日本に関心を持っており、非常に温かく接してくれたことも印象的でした。

最終日に行われたPBL修了書授与式

今回の留学は、学習面・語学面・交流面のいずれにおいても非常に有意義な経験となりました。語学や知識に不安がある場合でも、実際に参加することで多くの学びが得られると感じました。私自身も不安を抱えながらの参加でしたが、周囲の学生の支えもあり、司会進行を担当する機会にも挑戦することができました。こうした経験を通じて、学生のうちは失敗を恐れず挑戦することの重要性を改めて認識しました。今後も自己成長のために積極的に新たなことに挑戦していきたいです。

カラオケ

広安里ビーチ前にて

最後に、本実習に際してご指導いただいた先生方、運営に携わってくださった学務の方々、そして温かく迎え入れてくださった仁済大学の学生の皆様に深く感謝申し上げます。今後もこのような貴重な実習の機会が継続されることを願っています。

課外活動

体育系、文化系ともに、医学部の多くの学生がサークル活動に参加しています。サークルで友人関係を広げることで、学生生活をより充実したものにしています。

医学部学生サークル一覧

空手道部
弓道部
剣道部
柔道部
合気道部
サッカー部
フットサル部
準硬式野球部
硬式テニス部
ソフトテニス部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ラグビー部
ハンドボール部
卓球部
陸上競技部
水泳部
ゴルフ部
ドッジボール部
ウェイトトレーニング部
軽音部
ダンス部
馬出美術部
ピックルボールクラブ
漢方医学研究会
熱帯医学研究会
数理医学研究会
情報研
KLSA

建 物 配 置 図　CAMPUS MAP

⑱ナイチンゲール誓詞の碑

⑦釜掛の松

⑧長塚節逝去の地

⑨九大生協食堂

⑪ヒポクラテスの木

⑫医学図書館

⑬医学部正門

⑭医学部75周年記念庭園

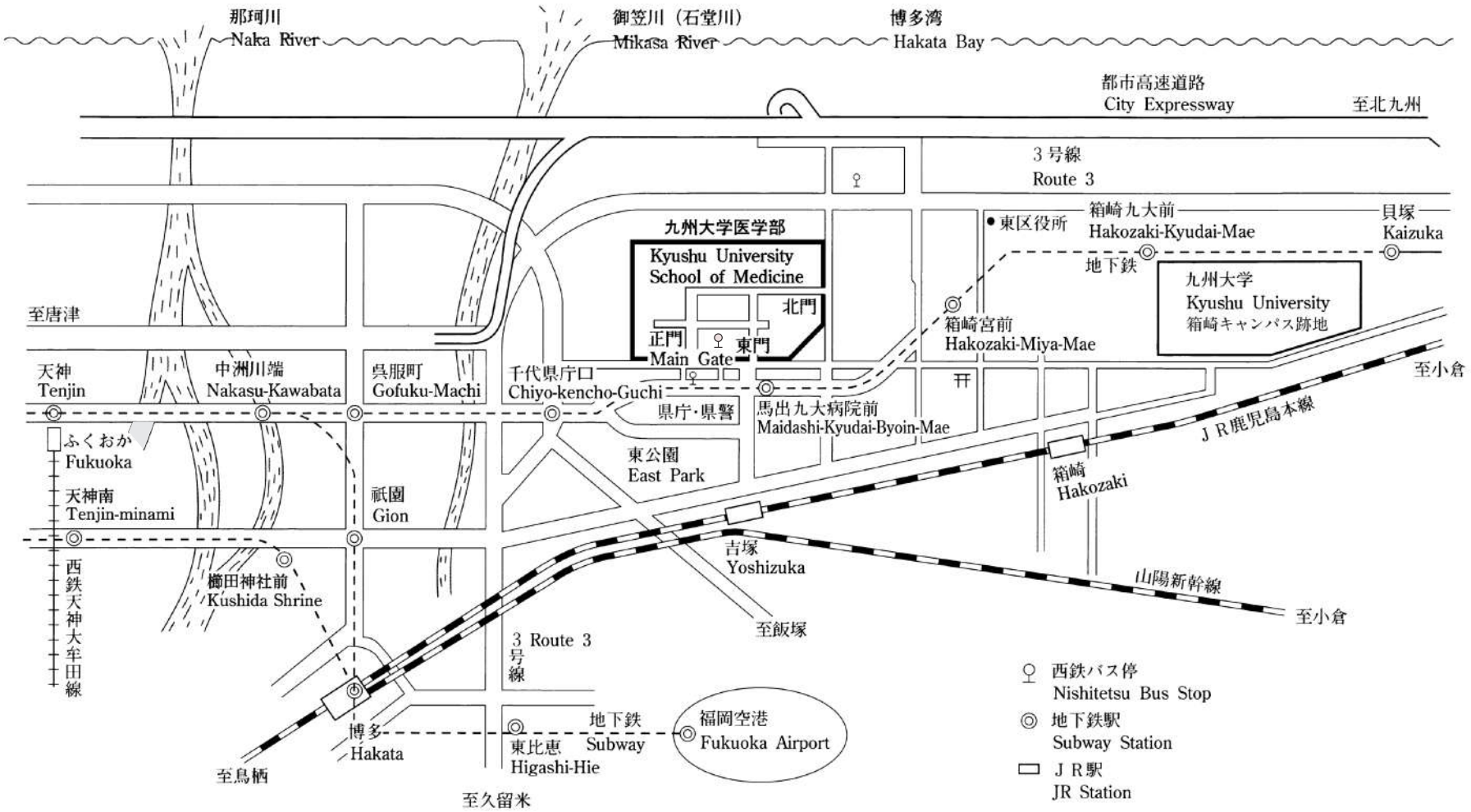
⑮神の手

⑰百年講堂

⑯慰霊塔「崇高な精神」

所在地略図 AREA MAP

医学部医学科、生命科学科
〒812-8582 福岡市東区馬出３丁目１番１号 ☎092-642-6020 FAX. 092-642-6189
3-1-1 Maidashi, Higashi-ku, Fukuoka City 812-8582 http://www.med.kyushu-u.ac.jp/



○ 博多駅から地下鉄（中洲川端駅で乗り替え）で約10分
Subway service from Hakata Station to Maidashi-Kyudai-Byoin-Mae is a 10 minute ride, but, necessary to change trains at Nakasu-Kawabata on the way

○ 博多駅から西鉄バス（系統番号10番九大前又は吉塚営業所行き）で約15分
Nishitetsu bus service, No. 10 Kyudai-Mae' or Yoshizuka-Eigyosho-Yuki', from Hakata Station to Kencho-Kyudai-Mae is a 15 minute ride

○ 福岡空港からタクシーで約20分
20 minute taxi ride from Fukuoka Airport

○ 福岡インターチェンジから約20分
20 minute car ride from Fukuoka Interchange

Kyushu University
School of Medicine
Department of Medicine

九州大学医学部医学科ホームページ
https://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/